

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立津島高等学校

学校番号(47)

教育方針	人格の完成を目指し、国家及び社会の有為な形成者として、文化の創造と発展に寄与する人間を育成する。	重点目標	確かな学力と豊かな心を育て、社会に役立つ力を身に付けさせる教育の推進
------	--	------	------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	習熟度別やチームティーチングの授業を適宜設定し、生徒の進路に合わせた授業をできるだけ実施することで、授業に熱心に取り組む生徒が90%以上となることを目指す。	B	生徒の授業満足度は96.5%、「授業がよく分かる」の項目が85.4%、「授業に熱心に取り組んでいる」の項目が79.7%であり、生徒は全体として積極的に学習に取り組んでいる。	特にチームティーチング(支援員含)が効果的に行われた。来年度も可能な限り実施し、生徒の進路に合わせた授業をすることで、授業に熱心に取り組む生徒が90%以上となることを目指す。
	読書指導の充実	授業やホームルーム活動などでの図書館利用を啓発し、図書に触れる機会を増やす。また、蔵書に関する情報提供を積極的に行う。図書貸出冊数一人当たり年間3冊以上を目指す。	C	「読書の習慣が身に付けている」の項目が57.3%で昨年度とほぼ同じであった。一人当たりの貸出冊子数は2.0冊となり目標を達成することができなかった。	図書館利用を更に推進するため、蔵書に関する情報提供を積極的に行う。また、利用しやすい図書の選定と購入に努める。来年度は読書週間を設けて朝の読書の時間を充実させることを検討している。
	自主学習の充実	学習の動機付けと適切な課題を与えることで、一日2時間以上の自主学習時間を確保させる。自主学習の習慣を身に付けている生徒が70%以上となることを目指す。	C	「自主学習の習慣が身に付いている」と答えた生徒が49.4%と昨年よりも10ポイント下がった。普段から積極的に学習する生徒とそうでない生徒の二極化が進んでいるように感じる。	自主学習を身に付けさせるには、適切な小テストの実施を各教科で検討する必要がある。そのためには家庭学習において、復習をしなくてはならないような課題を各教科で検討していく。
	アクティブ・ラーニングの充実	生徒の主体性を重視した学習活動を更に増やし、学習意欲が高まるよう授業改善を図る。また、校内研修の充実を図るとともに、他校の公開授業などにも、積極的に参加する。	B	外部から講師を招き研修会を実施することで、アクティブ・ラーニングを効果的に進めるための手法や教具について学び、研究授業等で積極的に活用できた。また、他校の公開授業にも積極的に参加した。	全ての教科で、ICT機器等の教具を有効に活用するなど、生徒の学習意欲向上、知的好奇心、興味関心を高める工夫を図る。また、校内研修を充実させるとともに、相互授業参観、それに伴う相互評価等を実施することで組織としての授業改善を図る。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	5分前登校を徹底することにより、遅刻0の日65日以上を目指す。基本的生活習慣の確立に努め、全校での年間通算出席率98%を目指す。	B	出席率は97.9%、遅刻0の日は62日であり、目標達成には至っていない。欠席する生徒には精神的な問題も多くなっており、心のケアを必要とするケースが増えている。個別面接など、生徒に関わる機会を増やす必要がある。	5分前登校は効果的であったが、遅刻・欠席の減少には至っていないため、生徒会、教職員で連携し、5分前登校の強化、生活管理の重要性についての呼びかけ等を行うなど打開策を講じる。
	規範意識の育成	規範意識を高め、問題行動0件を目指す。端正な服装に留意させ、身だしなみ指導での違反率5%未満と違反繰り返し0件を目指す。	B	問題行動については2件発生した。特別な支援を要する生徒に対して十分指導できなかった。身だしなみについては、大部分の生徒は問題ないが、一部の生徒に違反の繰り返しが見られたため、指導を徹底した。	支援を要する生徒に対する指導について、特別支援教育課と連携を取って指導していく必要がある。身だしなみについては、教員間の共通意識を図り、普段から見逃さない指導を徹底したい。
	特別活動の活性化	部活動・委員会活動については、今年度から、より充実した活動となるよう再編整備したことを踏まえ、生徒の充実度90%以上になることを目指す。	B	部活動・委員会活動の精選を実施したが、生徒はそれぞれの場所で意欲的に活動できたように感じる。ただ、生徒の充実度は78.6%と低く更なる工夫を要する。	生徒数の減少により団体競技の部活動が難しくなっている。運動部が少なくなっているが生徒が充実した活動ができるよう兼部のできる環境の充実等を含め工夫を図る。全ての生徒を満足させることは難しいが、目標に近づくようにしたい。
	交通安全意識の高揚	本年度指定を受けた「高校生自転車マナー向上対策事業及び自転車交通マナー向上対策実践指定校」に生徒が主体的に取り組むことにより、交通違反0件、交通事故0件を目指す。	A	交通マナー実践指定校に指定され、様々な取り組みをした成果として今年度交通事故0件であった。	登下校の自転車マナーの遵守はもちろんのこと、普段家庭での生活での自転車マナー、法規遵守を徹底していきたい。

人権教育	人権委員会活動の充実	地域機関や中学校と連携し、人権委員の学びの深化を目指す。また、全校生徒の人権意識の向上を目指し、年間11回の人権デーを実施し、人権委員会が主体となって運営に取り組む。	A	今年度も人権デーを継続して実施できた。また、人権委員会の活動として、岡山・大阪方面への現地研修を津島中学校の人権委員と合同で実施し、その成果を地域の方々や本校生徒に報告することができた。	県外現地研修については来年度も引き続き実施することができればと考えている。宇和島市教育委員会津島支所や、人権教育協議会津島分会等の各機関との連携を深めていきたい。
	充実した人権教育の実施	人権・同和教育ホームルーム活動や講演会などを通して、地域に開かれた人権・同和教育を目指す。また、年間2回の人権・同和教育教職員研修会や様々な外部の研修を通して教職員の人権意識の向上を目指す。	B	今年度は人権・同和教育教職員研修会が2回となり外部講師を招いての研修会を実施することができなかった。しかし、多くの研修会や学校訪問等にも参加し、学びを深めることができた。	校務のスリム化の観点から、教職員研修を2回としたが、教職員への校内研修の時間確保を十分確保することは困難である。2回の研修内容を精選させることで質の高い研修を実施する。
	情報モラル教育の充実	生徒に携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、SNS利用等によるトラブル0件を目指す。インターネットの使用に関する講座をホームルーム活動等を活用して実施する。	B	生徒対象に研修講座「携帯電話やネットに潜む危険性について」を実施し注意喚起を呼びかけたが、アンケートの回答の中にもLINEやTwitter等でのトラブルも発生しており、更なる取組が必要である。	今年度同様に、生徒対象に研修講座を開催し、インターネットの正しい利用方法について指導していきたい。また、ホームルーム活動等も活用し啓発を進めたい。
進路指導	キャリア教育の推進	インターンシップ等を通して生徒の職業意識の形成を図り、満足度100%を目指す。更に、地域の産業や地元企業への理解を深めさせ、地元就職の促進を図る。また、進路に関する面談を充実させ、きめ細かな進路指導の徹底に努める。	B	インターンシップや進路説明会は、生徒・保護者とも進路選択に役立っていると感じてはいるが、昨年度より4.5ポイント減少しており、更なる改善の必要性を感じている。	来年度は、従来のインターンシップや進路説明会を改め、「総合的な探究の時間」と連動させ地域の産業や地元企業への理解を更に深め、それらを基に生徒一人一人が進路実現を図れるよう指導の充実に努めていきたい。
	検定資格取得指導の充実	卒業時の資格取得100%を目指す。授業や補習授業等を充実させる。更に、資格取得を通して得られた達成感を普段の学習活動や進路実現に役立てられるようにする。	B	3年生の検定資格所得率は94.9%で、昨年度よりも3ポイント増加した。しかし、生徒の資格取得に対する意識は低下しており、学習意欲の向上や進路実現につなげるための取組が必要である。	学習活動目標の一つとして検定資格取得を掲げ、学習に対する意欲の向上や進路実現につなげるための指導を該当教科で充実させたい。また、学習指導要領の改訂とともに思考力・判断力等を必要とする問題へと変化してきており、指導の工夫・充実が必要である。
	個に応じた進路指導の充実	生徒一人一人の状況に応じた進路指導を通じて、第一志望の合格率100%を目指す。効果的な学習環境の整備を行い、進学希望者の学力伸長に努める。また、教育改革が進む中で、迅速かつ適切な進路情報の提供に努める。	B	進路決定率は100%を達成した。特に、進学面では、大学7名、医療系専門学校4名など成果を上げることができた。引き続き関係機関等との連携を図り、生徒の希望に応じた進路指導に努めたい。	進学指導において生徒の自主性はもちろんではあるが、生徒の学力や学習意欲を喚起するために教員による積極的な働きかけを更に努めていきたい。そのためにも個別面接をより充実させ、早期からの取組ができるよう改善を図っていきたい。
学校経営	学校安全体制の強化	危機管理マニュアルがより使いやすくなるよう内容を点検する。また、高校生防災士を増やし校内防災体制の強化を図るとともに、地域との連携を密にし、災害発生時の協力体制を強化する。	B	危機管理マニュアルに新たに土砂災害時及び洪水時の避難確保計画を追加し、マニュアルに従い予告及び予告なしでの防災避難訓練を実施した。また、生徒3名、教職員8名の防災士が中心となり、地域と連携して防災避難訓練を実施した。	危機管理マニュアルを用いた実践的な防災避難訓練を地域と連携して実施し災害発生時の協力体制を強化する。また、高校生及び教職員防災士の拡充を図るとともに、HUG（避難所運営ゲーム）の実践や防災食体験などを通じて防災意識の高揚を図る。
	地域との結び付きを大切にした教育の推進	地域での交流学習の内容を充実させ、年間10回以上実施することで地域との結び付きを強化する。また、地域貢献を通して生徒の社会性や自己肯定感を高める取組を継続的に実施する。	A	宇和島市、高齢者福祉施設、幼稚園、地域事業所との交流学習を延べ22回実施し、地域との結び付きをより強化した。生徒の満足度は昨年度から0.4ポイントアップの93.2%であり、高水準を維持している。	地元の関係機関と連携した交流学習を継続し、多くの生徒に地域の良さを再確認させるとともに、地域への誇りを持たせるなど郷土愛を醸成する。
	地域について学ぶ学習の充実	地域からの協力体制を生かし、地域の歴史や伝統文化を学ぶ機会を学年、各種委員会、部活動等で設定し、年間10回以上実施する。	B	地域の歴史や伝統文化を学ぶ機会を延べ13回設け、各学年等で発達段階に応じた体験活動を実施し、地域理解に努めるとともに情報収集力や表現力が向上するなど成果を収めた。	各学年における地域の歴史や伝統について学ぶ機会を通じて、情報収集力、整理・分析力、表現力の更なる向上を図る。また、学習内容を横断的に捉え、多面的に地域を理解することがよう工夫をする。
	広報活動の充実による開かれた学校づくり	「津高タイムズ」やホームページを活用し、より広く情報発信できるように工夫する。ホームページは内容の充実に努め、アクセス数平均250回/日以上を目指す。また、行政や報道機関等を活用した学校の魅力紹介を積極的に行う。	B	「津高タイムズ」やホームページの活用に加えて、学校説明会を7回実施し幅広く広報した。ホームページのアクセス数は258回/日であり昨年度から33回/日増加している。また、報道機関に積極的にプレス発表し、学校の魅力紹介に努めた。	「津高タイムズ」やホームページの内容をより工夫内容を充実させるとともに、報道機関を活用した学校の魅力紹介を積極的に行う。また、学校説明会に多くの中学生及びその保護者に参加してもらえよう工夫をする。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。